

令和2年9月 岩手県教育委員会定例会 会議録

1 開催日時

開会 令和2年9月23日(水) 午後1時30分

閉会 令和2年9月23日(水) 午後1時46分

2 開催場所

県庁10階 教育委員室

3 教育長及び出席委員

佐藤 博 教育長

小平 忠孝 委員

芳沢 荃子 委員

畠山 将樹 委員

新妻 二男 委員

宇部 容子 委員

4 説明等のため出席した職員

梅津教育次長

渡辺教育企画推進監、千葉予算財務課長、山村参事兼教職員課総括課長、木村学校調整課総括課長、中川学校教育課総括課長、清川保健体育課総括課長、藤原生涯学習文化財課総括課長

教育企画室：菊池主任主査、長内主事（記録）

5 会議の概要

第1 会期決定の件

本日より決定

第2 事務報告1 令和2年9月県議会臨時会の概要について（教育企画室）

別添事務報告により説明

畠山委員：文教委員会での質問に関連して、エアコンの整備に関しては、コロナの関係で空調も保ちつつ換気もしなければならず、また、電気代の問題もあり、どう使っていくかが課題だと思います。今後、どのような展開となっていくのか教えてください。

もう1点は、スクールサポートスタッフについてです。教育事務所長会議で、スクールサポートスタッフの活躍があつて、消毒作業等が助かっているという話がありましたが、今後の県立学校等での展開の見通しなどがありましたら、お聞きしたいです。

千葉予算財務課長：エアコンの電気料の試算については、全日制の高等学校で3,000万円ほど増加する見込みです。現在、県立学校全体で年間5億円ほどかかっているところに、エアコン整備やICT機器の導入により3,000万円ほどの増となる試算です。これに関する対応については、電力調達方法への入札の導入により、経費を軽減できないか検討をしております。

山村参事兼教職員課総括課長：スクールサポートスタッフについては、コロナの影響で増加している教員の業務をサポートするため、すべての小中学校、県立学校に1名ずつ配置する計画でございます。9月上旬時点で、小中学校は452名の配置計画に対して312名で69%程度の配置となっております。県立学校は81名の配置計画に対して72名で89%程度の配置となっております。人の確保が難しい地域であったり、学校と応募者の考える勤務時間のマッチングがうまく合わない地域もあるようでして、小中学校の配置率が低くなっておりますけれども、各校に配置できるよう募集等を進めています。勤務時間の希望が合わないような場合については、まずは配置をすることを優先して、柔軟に対応するよう教育事務所や学校と準備を進めているところです。

佐藤教育長：私からも若干補足をさせていただきますが、県立学校の電気料は年間約5億円とかなり大きな額をお支払いしています。そこにエアコン等が整備されると、さらに3,000万円増額ということで多額のランニングコストがかかってきます。これから来年度の予算編成の作業が始まりますが、生活費的な経常的経費についても厳しい要求基準となるのではないかという中でエアコンの整備が進んで電気代がかかるということになります。確かに節減努力はしなければなりません、電気代については、しっかり管理をした上で、どうしても不足する場合は補正予算等もあるので心配しないということ、本日午前中の全事務長を集めた会議の中で、私から伝達したところです。

また、増嵩する電力のコストの引き下げについては、全国でもスマート電力という入札制が導入されてきていまして、実は県庁舎ももうすでに導入しています。そういった取組みをすることによって、契約額が下がることも見込まれますので、実際に取り組んでいけるかどうかを今、他県の導入例などの調査研究をしているところでございます。

畠山委員：電気代についてよく分かりました。各学校の事務の方が胃を痛めるようなことがなければいいと思っています。

スクールサポートスタッフは、確かに人材確保が大変だという話を伺っていました。地域の特性などもあって大変だと思いますが、消毒作業など、スクールサポートスタッフによって先生方も助かっているという声もありましたので、先生方の負担軽減とゆとりを持って子どもたちに接してあげられるように、ぜひ支援の継続をしていただければと思います。

会議結果の公表は、教育長に一任することとして議決された。